

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 茅沼秀樹

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医学部の臨床系教員として、小動物臨床における画像診断学の教育を主として行っている。

近年、獣医療領域で使用され、診断を行う画像診断機器の種類は多く複雑である。また、描出される画像は非常に詳細であり、多くの知識と経験を必要とする。これら画像診断機器を理解し、読影のための最低限の知識を教える責任があると考ええる。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医放射線医学	獣医学科	必修	2	
小動物獣医総合臨床Ⅰ～Ⅲ	獣医学科	必修	5	
獣医総合臨床実習	獣医学科	必修	5	
小動物臨床実習	獣医学科	必修	5	
小動物病院実習	獣医学科	選択	6	
総合獣医学	獣医学科	必修	6	

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

獣医学における画像診断学は、正常な動物の解剖学や生理学が基礎となり、各種疾患によって生じる病理学的変化を動物の体を傷つけることなく診断する学問である。そのため、正常な動物の構造や仕組みを取り扱う解剖学や生理学の知識があれば正常画像を理解することは容易である。また、正常像が理解できれば、各種疾患の異常像を知らなくても、正常ではない（異常である）ことに気付くことができ、画像診断上最低限の診断である異常所見の検出を漏れなくできるようになるものと考えている。以上から、解剖や生理学といった基礎系学問が、臨床系学問に直結し、画像診断が決して難しい学問ではないことを理解してもらいたいと思っている。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

画像診断は数値や波形で表される検査と異なるため、見た目の感覚に左右され、客観性に欠き画像評価（診断）が非常に難解である。画像診断学におけるこの特徴は、診断画像をみる機会の少ない学生や経験の少ない臨床獣医師から倦厭される大きな要因であると思われる。画像を診断するためには、感覚も最も重要な要素であることから、教えるだけではその感覚を身につけることができない。このため、まずは自身の感覚で考えをまとめてもらい、その後正しい感覚と誤った感覚を修正するようなディスカッションが重要と考えている。したがって、教える前に学生自身でまずは考える時間を与え、学生自身の感覚を養う機会を与えている。また、主観的評価に対して少しでも客観性を持たせられるよう、正常臓器の大きさ等は近隣構造の大きさと比較して評価ができる基準値を教えるよう心掛けている。

（1）アクティブ・ラーニングについての取組

無

アクティブラーニングについての取組

獣医放射線学を学ぶ前に学習してきた解剖学的や生理学における各部位ごとの特徴と、画像上に現れる特徴をリンクしながら教える様に心掛け、画像に興味を持って取り組んでもらうことと、今までの学習してきた解剖学や生理学を自ら復習して、さらに深い理解が得られるよう講義を進めている。

（2）ICTの教育活用

無

画像診断における各種画像は、DICMフォーマットと呼ばれるデジタルデータであるため、各種疾患症例のティーチングファイルを作成している。現在、症例数は増えつつあり何らかの形で公開は可能であるが、分野に偏りがあるため、なるべく早期にそろえていきたい。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

（1）教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

基礎学問の解剖学や生理学とリンクするよう、なるべく簡単などころから話をすることを心掛けているが、それをやり過ぎると時間が足りなくなってしまうため、自分が理想と考える講義内容にはなっていない。今後は画像診断学そのものから、解剖学や生理学も学び直せるような逆の発想を考えてみる。

（２）学生の理解度の把握

A

講義後、近くの学生に話しかけ授業の理解度について軽く聞いてみる程度なので、今後は学理を使用したクイズの出題などを行って、確認していきたい。実習では班単位ではあるが、症例のX線画像の診断を課題に与え、ディスカッションを行う中で理解度を把握している。

（３）学生の自学自習を促す工夫

B

授業中に解剖学的特徴などを学生に問い、あえて答えを言わず調べるよう促す程度である。今後は、臨床上重要な解剖学または生理学的事項を箇条書きにし、事前に予習させたり、学理を使用したクイズの出題などを行ったりして、学生が興味を持って学習するよう促していきたい。実習では班単位ではあるが、症例のX線画像の診断を課題に与え、ディスカッションを行い基礎獣医学の自学自習を促すようにしている。

（４）学生とのコミュニケーション

A

授業後の質問はもちろんのことながら、メールでの質問に対しては、図や写真に書き込みをして返信するようにしている。実習では班単位ではあるが、症例のX線画像の診断を課題に与え、ディスカッション形式で教育している。

（５）双方向授業への工夫

B

一方的に講義が進むのではなく、問いかけ、その間に学生が考えながらゆっくりと進むようにしたいと思っているが、やり過ぎると講義時間が足りなくなるため十分ではない現状にある。実習では班単位ではあるが、症例のX線画像の診断を課題に与え、ディスカッション形式で教育している。

（６）国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

国家試験に出るような典型的画像は、授業の配布資料にも入れ、講義で説明するようにしている。今後もより多くの典型的症例画像をアップデートするよう努めたい。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

資料の充実

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

資料を充実させると学生が授業に参加しなくなる。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

講義時間のみでは十分でない分は、配付資料の充実で補い、アクティブラーニングを促していきたい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

配付資料の充実とティーチングファイルの症例画像を充実させ、授業のみではなく学習させる。

(2) (1)の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

なし

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

今後もFDに参加する。またはオンディマンド学習にも取り組む。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

病院実習では、他の実習と比較して時間的制限が緩いので、学生との対話を重視し、動物や飼い主さん、現場での検査や治療を効率的に利用して教育に取り組んでいきたいと考える。